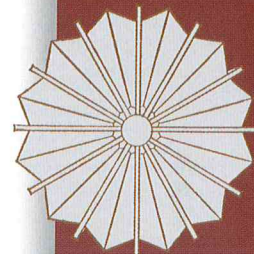


觀阿弥生誕六百八十年
世阿弥生誕六百五十年



福岡観世会定期能

平成二十六年(第二回)

能 賀^か

茂^も
森本 哲郎

狂言 咲^{さつ}

嘩^か
野村 万禄

能 弱^{よろ} 法^ぼ

師^し
多^た久^く島^{しま}利^り之^の
盲目之舞



とき 5月17日(土) 午後1時始
ところ 大濠公園能楽堂
入場券 自由席 7,000円
発売所 大濠公園能楽堂事務所
092-715-2155

附祝言

弱法師

多々島利之
江崎金治郎
野村 万祿
白坂 信行
飯田 清一
相原 一彦

後見 坂口 貴信
観世 清和
地謡 今村嘉太郎
久保誠一郎
武富 昭
山口剛一郎
今村 鷹尾
大槻 嘉伸
吉井 文藏
基晴

咲

屋島 山本 章弘
雲林院クセ 観世 清和
善知鳥 大槻 文藏
井内 政徳
吉井 基晴
坂口 信男
今村 一夫

△休憩十五分△

嘩

野村 万祿
吉住 博靖
吉住 講
吉良 博靖

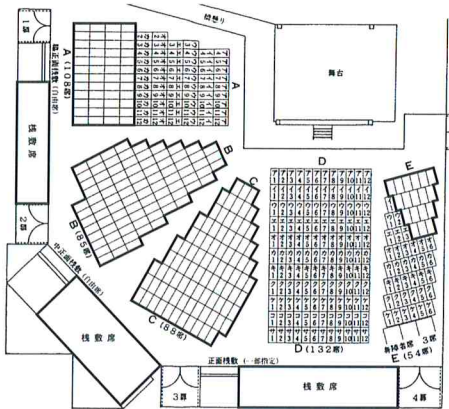
賀茂

是川 正彦
江崎金治郎
松本 義昭
吉住 講
白坂 保行
幸 正佳
吉谷 潔
森田 徳和

△休憩十分△

後見 山口剛一郎
山本 章弘
小倉康太郎
井内 政徳
今村嘉太郎
坂口 貴信
今村 嘉伸
坂口 信男
鷹尾 維教

胡蝶 菊本 美貴
女キリ 今村 宮子
占キリ 多々島法子
地謡 松田美栄子
菊本 澄代
谷村 育子
長宗 敦子



※番号が書かれていない席は自由席です ※観客席は自由席です

第二回予告

平成26年12月6日(土)午後1時始

能 小督 今村 嘉伸

能 萩大名 野村 万祿

能 遊行柳 観世 清和

青柳之舞 朽木留

主催 / 福岡観世会

◆賀茂

御注蓮を張り、白羽の矢を立てた矢立台という作り物は、この曲だけに用います。神秘の象徴であり、神職の者の問いに答えて里女が語る、賀茂神社の縁起に繋がっています。
月光の下、糺の森は瀬見の小川の流れをすずみとる御祖(みおや)の女神の清らかな姿と、雷を轟かせながら登場し国土の豊穡を約して去る別雷神(わけいかずちのかみ)の鮮烈なる気品は格別で、人気の高い曲です。

◆咲嘩

田舎に住むある人が、連歌の初心講の当番になりました。しかし田舎には、宗匠にふさわしい者がいないため、都に住む連歌好きの伯父に教えを請うべく、太郎冠者を使い、立っています。
太郎冠者が都へ着きますと、そこへ伯父になりました「見乞いの咲嘩(みごいのさつか)とあだ名される盗人が現れ...

◆弱法師・盲目之舞(もうもくのまい)

梅薫る二月、天王寺にて施行を行う高安道俊には、人の告げ口にだまされ、我が子俊徳丸を追い出してしまった過去と、その事への深い後悔がございました。
折しも彼岸の中日、彼の前に現れた弱法師と呼ばれる盲目の青年(実は俊徳丸その人でした)は、まるで苦しい境涯を越えたような澄んだ心で、西方浄土を拝み、春の景色を詠みます。しかし、ふと溢れ出る悲嘆に狂おしい心情も覗かせるのでした。
「盲目之舞」の小書により、クセを省くところもあります。イロ工に変化を持たせ、弱法師の心情をより強く訴えます。

〔記・菊本澄代〕